



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オヘ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/15 (月)	+ 400	+ 71,500	+ 71,900	国庫短期証券発行・償還 (3M) 年金定時払い 源泉所得税揚げ	国債補完供給 + 9,661	CP買入 + 4,000	日: GDP(2Q) 日: 鉱工業生産 (6月)
8/16 (火)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000				米: 住宅着工件数 (7月) 米: 鉱工業生産 (7月) 米: 中間予備選挙
8/17 (水)	トン	▲ 27,000	▲ 27,000	国債発行 (5Y)	共通担保資金供給 ▲ 2,051		日: 貿易収支 (7月) 日: コア機械受注 (6月) 米: 小売売上高 (7月) 米: FOMC議事要旨 (7月26、27日開催分) ユーロ圏: GDP (2Q)
8/18 (木)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				米: 新規失業保険申請件数 (13日終了終) 米: 中古住宅販売件数 (7月)
8/19 (金)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	国債発行 (20Y)	被災地支援資金供給オヘ ▲ 2,855		日: 全国CPI (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は先週末対比5,500億円増加532兆6,700億円から始まった。その後9日532兆1,400億円、10日529兆7,700億円と大きな変動は見られず週末12日の同残高は530兆7,800億円を越えた。

無担保コール市場は積み終盤を見据えビッドサイドの調達意欲は堅調に推移し、ON物加重平均金利は△0.009%～△0.008%のレンジで推移した。ターム物では1W～2W物を中心に、主に△0.020%～△0.010%の水準で出合いが見られた。来週の主な予定は、国内ではGDP (2Q) 速報の公表 (15日)、7月貿易収支公表 (17日)、7月全国CPI公表 (19日) などがあり、海外では7月の米小売売上高の公表 (17日)、ユーロ圏GDP (2Q) 速報 (17日)、7月の米中古住宅販売件数の公表 (18日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.040 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初△0.085%近辺で始まり、週を通して同水準で推移した。積み最終日となる15日受渡しの取引でもレート水準に大きな変化は見られなかった。SC取引は2年429～438回債、5年148～153回債、10年350～367回債、20年171～181回債、30年65～75回債、40年9～15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行総額は約6,840億円で、週間償還額 (約4,500億円) を上回った。発行市場は、夏季休暇の影響もあり落ち着いた相場展開であったものの、電気機器や小売り等一部の業態で大型の発行が実施された。発行残高は先週末の28兆5,188億円から8月10日時点で28兆4,575億円に減少した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。9日に、CP等買入オヘが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート0%・平均落札レート0.001%と前回 (按分レート0%・平均落札レート0.019%) 比で平均落札レートは低下した。

来週の週間償還額は、約4,500億円となっている。発行市場は、週前半は夏季休暇中の企業も多く閑散が予想されるが、週後半は休暇明けの発行再開と5・10日発行が重なり相応の発行が見込まれる。発行レートは横ばい圏内での出合いを予想する。

<TDB>

8月9日の6M1100回債の入札は、最高落札利回り△0.1387% (前回債△0.1823%)、平均落札利回り△0.1763% (前回債△0.2120%)、8月12日の3M1101回債の入札は、最高落札利回り△0.1042% (前回債△0.1202%)、平均落札利回り△0.1126% (前回債△0.1299%) となった。来週は18日に1Y、19日に3Mの入札がある。